

## 「レジリエント社会の構築を牽引する起業家精神育成プログラム」

### ● プログラムの概要

世界各地で様々な災害が発生し、毎年多くの被害が出ています。国連国際防災戦略 (UNISDR) によると、2018年に世界で地震や津波、洪水などで被災した人は約6,177万人、死者は1万373人でした。被害の大きさは、自然現象の種類や大きさにもよりますが、社会の在り方によっても大きく異なります。

日本もこれまでに多くの災害に見舞われてきました。1995年に阪神淡路大震災、2008年に東日本大震災、そして昨年、北海道胆振東部地震が発生しました。神戸では復興は終了し、現在から復興当時を振り返り、時系列で変化してきた課題・取組みを整理して、より良い復興をするために何が必要だったのか、どうすべきだったのかを検討できる時期に入っています。一方、東北は復興の途中にあり、これまでの復興プロセスを振り返り、今後の復興の方針を再検討する時期にきています。この二つの復興プロセスから、北海道の復興のあるべき姿を構築し、さらに、今後発生するであろう我が国の災害に対して、新しい復興プロセスの在り方を考えることで、未来のレジリエンスについて一緒に考えてみましょう。本プログラムでは、未来のレジリエント社会を構築するために必要と考えられる知識と思考力を養うための合宿形式の研修を提供します。

### ● 開講日程／場所

- 2019年 9月14日(土) - 16日(月・祝) / 神戸
- 2019年 10月12日(土) - 14日(月・祝) / 東北
- 2019年 11月 2日(土) - 4日(月・祝) / 北海道

### ● プログラムの到達目標

本プログラムにおいて、レジリエンスとは、「システム・企業・個人が極度の状況変化に直面した時、基本的な目的と健全性を維持する能力」(「Resilience」 Andrew Zollie and Marie Healy [2013])と定義し、レジリエント社会の構築を牽引する人材を「社会システムの脆弱性を読み解き、災害による変化を予測して、創造的価値を生む事業を創出・持続できる人」と定義します。本定義に基づき、以下の4項目を到達目標とします。

- ・社会システムの背景(歴史・文化・地理・産業など)を理解することができる。
- ・極度の状況変化による影響(社会システムのダメージ・ステークホルダーの心理など)を理解できる。
- ・自助・共助・公助の視点を有する。
- ・社会的価値と経済的価値を両立する事業を設計することができる。

### ● 事前学習

本プログラムの受講希望者は、エントリーシートに以下の2点について記述し、7月31日までに提出してください。

- ・復興あるいは防災・減災において問題・課題だと考えている事柄について
- ・上で述べた内容が問題・課題だと考えている理由について

### ● 内 容

	講 義 内 容	講義形式	授業外課題
@神戸			
第1回 9月14日	【オリエンテーション】 プログラムの趣旨など 【アイスブレイク】 自己紹介	座 学 グループワーク 個人ワーク	最終レポート作成(全体を通して、自分が設定した課題を解決すべく、レジリエント社会の構築につながる事業を設

	<b>【社会システム】</b> レジリエンスとは何かを理解する <b>【極度の状況変化】</b> 歴史を理解する シミュレーションを理解する 心理を理解する		計し、11月20日までに提出すること)
第2回 9月15日	<b>【極度の状況変化】</b> 人と防災未来センターを見学する 被災者の体験談を聞く 変化を時間軸から全体俯瞰する	座学 フィールドワーク グループワーク	
第3回 9月16日	<b>【二つの価値の両立】</b> 復興／防災・減災に係る価値と経済的価値について理解する	座学 グループワーク	
<b>@東北</b>			
第4回 10月12日	<b>【極度の状況変化】</b> 女川町を視察する 被災者の体験談を聞く <b>【自助・共助・公助】</b> 自助・共助・公助の仕組みを理解する	フィールドワーク グループワーク 座学	
第5回 10月13日	<b>【極度の状況変化】</b> 雄勝町を視察する 被災者の体験談を聞く	フィールドワーク グループワーク	
第6回 10月14日	<b>【二つの価値の両立】</b> 復興／防災・減災に係る価値と経済的価値を考える	座学 グループワーク	
<b>@北海道</b>			
第7回 11月2日	<b>【極度の状況変化】</b> 厚真町を視察する 被災者の体験談を聞く <b>【二つの価値の両立】</b> 復興／防災・減災に係る価値と経済的価値を両立させる	フィールドワーク グループワーク 座学	
第8回 11月3日	<b>【事業設計】</b> レジリエント社会の構築に寄与する事業を設計する	座学 グループワーク 個人ワーク	
第9回 11月4日	<b>【まとめ】</b> 発表・フィードバック 振り返り		11月20日までに最終レポート提出

● 担当教員

武田浩太郎 (TAKEDA Kotaro) 東北大学大学院工学研究科工学系研究企画室 講師  
kotaro.takeda.c1@tohoku-u.ac.jp

石田祐 (ISHIDA Yu) 宮城大学事業構想群 准教授  
ishiday@myu.ac.jp

友渕貴之 (TOMOBUCHI Takayuki) 宮城大学事業構想群 助教  
tomobuchit@myu.ac.jp

加藤知愛 (KATOH Tomoe) 北海道大学 研究員  
pianophoto@icloud.com

鶴田宏樹 (TSURUTA Hiroki) 神戸大学 学術・産業イノベーション創造本部 准教授  
tsuruta@kobe-u.ac.jp

祇園景子 (GION Keiko) 神戸大学大学院工学研究科 道場「未来社会創造研究会」 特命助教  
kgion@port.kobe-u.ac.jp



本プログラムは、ERTH on EDGE 事業の一環で実施しています。